

環境報告書 2025

ENVIRONMENTAL REPORT 2025

豊前東芝は、新しい未来を始動させるために
SDGs（持続可能な開発目標）の取組みを加速させていきます。

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**





環境マネジメントシステム

環境マネジメント

継続的な改善や向上に全従業員で取組む仕組みを構築し運用

● ISO14001 外部審査 (2024年7月)



(2024年7月風景)

ISO14001:2015年版 認証取得

● 東芝デバイス&ストレージ社グループ 環境経営内部監査 (2025年1月)

※ 2025年度：オンライン審査



● 社内内部環境監査 (2024年6月)

※全6部門



(2024年6月風景)

環境経営監査、遵法監査、現場監査により
環境問題の発生を未然に防ぎます。

3
全
3
現
主
義

3 全 主義

全域の全設備施設を全員で管理

3 現 主義

現場で現物を見て現実を管理

目視管理

見る、見える、見せる管理



環境負荷状況

最小限の使用と削減（抑制）施策の実行



電力使用量推移

37,152MWh

35,032MWh

2019年

2024年



廃棄物総排出量推移

552 t

491 t

2019年

2024年



水資源受入れ量推移

77,436 m3

80,446 m3

2019年

2024年



化学物質取扱量推移

3 t

2 t

2019年

2024年



電力使用量、廃棄物排出量、化学物質排出量が5年前と比較して減少
水使用量については、近年の気温上昇に伴い動力設備の水使用量が増加



従業員の環境教育

教育・訓練

職能や専門性に応じたカリキュラムで教育

※ 21年度よりコンプライアンス強化を目的に『(豊前) 環境リスク・コンプライアンス教育』を追加。

区 分	教育名	対象者	内 容
階層別教育	部長・管理者教育	部長、管理者クラス 課長、主務クラス	環境目的・目標、環境法令、緊急事態など
	一般教育	一般従業員 (常駐会社含む)	
	新入者 / 転入社員教育	新規採用者 / 転入者	
職能別教育	特定業務従業員教育	特定業務従事者	特定作業のルール、逸脱した場合の環境影響など
	法定業務従業員教育	法定業務従事者	法定作業のルール、逸脱した場合の環境影響など
	内部環境監査員教育	内部環境監査員	規格の要求事項、監査員の役割と責任など
その他教育	(豊前) 環境リスク・ コンプライアンス教育	環境改善推進委員 環境事務局	法令順守事項、行政への届出対応など

環境教育テキスト一部抜粋

【1】地球環境問題、環境動向

プラスチックと環境問題には深い関係があります。容器の使用で食品ロスが削減されますが、適正使用・適正廃棄をしないことで海洋汚染・資源の枯渇が発生します。使用量の削減・代替など根本的な対策をとる必要性が高まっています。



	選んで	減らして	リサイクル
会社で 出来ること	①減量化 (出来るだけ使用材料を少なく) ②包装の簡易化 (過剰な包装は抑制) ③長寿命化(製品の耐久性向上)	①材料を使用期限内に使いきれるようにする	①廃棄物の有価値化推進 ②従業員に対して、分別の指導
個人で 出来ること	①プラスチック以外の素材のものを選ぶ ②再生利用されているものを選ぶ ③バイオマスプラスチックのものを選ぶ	①コンビニなど使捨てのフォークやスプーンなどを 使用しない ②ホテルなどで必要以上にアメニティを取らない ③レジ袋を使用しない	①自治体のルールに従って、 分別・回収・リサイクルをする

一人ひとりがこの問題を意識し、行動することが求められています。



従業員の環境訓練の実施

緊急事態発生を想定した訓練を実施

- 薬品補給時の漏洩を想定(ローリー車)
(2024年9月)



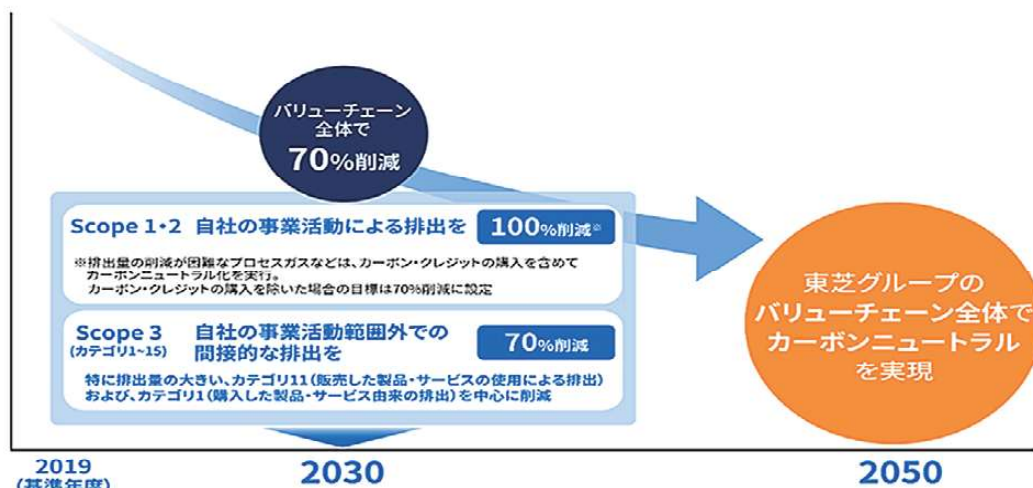
- 装置からの油漏洩を想定
(2024年9月)



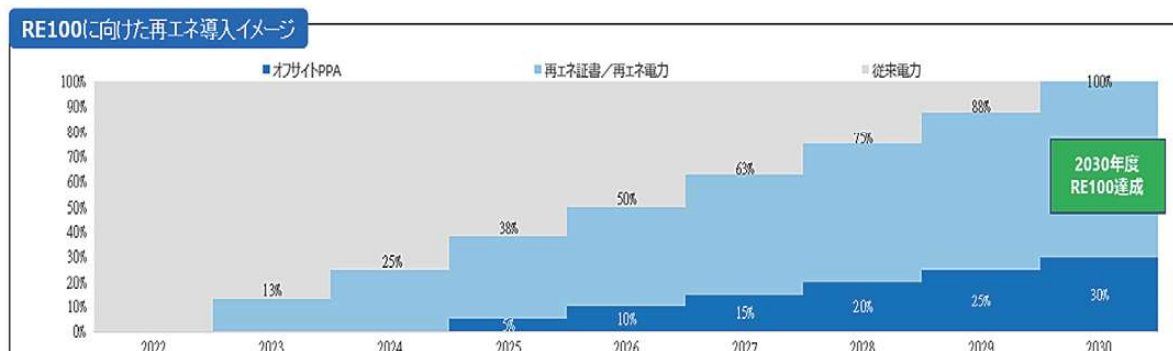


カーボンニュートラルに向けた取り組み

東芝グループでは 2050 年度までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルの実現を目指して、2030 年度までに自社の事業活動に伴って発生する温室効果ガス排出量（Scope1,2）を 100% 削減し、自社の事業範囲外での間接的な温室効果ガス排出量（Scope3）を 70% 削減することを目標としています。当社は東芝グループの一員としてこの目標達成を目指して、事業活動に伴い発生する温室効果ガス削減および再生可能エネルギーの導入、省エネ性能に優れた製品の創出による環境負荷低減を通じて気候変動への対応を推進します。



当社では、カーボンニュートラルの実現に向けて製造段階で発生する温室効果ガスのカーボンニュートラル化に取り組んでいます。Scope2 への対応として、省エネ設備の導入や削減施策の立案・実行を通じて温室効果ガス排出量削減を優先度の高い活動と位置付けて取り組み、さらに、非化石証書の購入やオフサイト PPA による再生可能エネルギーの導入の検討を進めており、2030 年度までに再生可能エネルギー 100% 導入を目標としております。2024 年度は各種施策に取組、計画通り約 25%の再エネ化を実現しました。今後も再生可能エネルギーの導入によりカーボンニュートラルの実現を目指していきます。



●事例紹介：コンプレッサー用 排熱ファン停止による電力削減

コンプレッサーの稼働順位変更により、連続運転していた予備機のモーター個別排熱ファンを停止。建屋換気排熱ファンを活用することでコンプレッサー予備機が運転するときのみ、排熱ファンを自動運転する運用に変更した。

Before	After
◆コンプレッサー用 排熱ファン (1.1kW) 常時稼働 ①消費電力：1.1kW × 1台 × 24h = 26.4kWh/日	◆コンプレッサー用 排熱ファン (1.1kW) 停止 ②消費電力：0kWh/日
■効 果 ※コンプレッサー稼働順位変更 (4月1日) による電力削減量 効 果：① - ② = 26.4kWh/日 9,636kWh/年 電力削減	
 	



豊前地区

● 各部門による工場周辺の清掃活動

2024 年：6 回（1 回 / 2 ヶ月）



● 豊前市主催クリーン作戦への継続参加

2024 年 10 月



● 近隣小学校との海の生物調査（生物多様性保全）

2024 年 9 月



● 県内企業への見学会（環境意識向上）

2024 年 6 月



● 環境情報の配信（環境報告書発行）

2024 年 10 月



● 海岸清掃活動（生物多様性保全）

2024 年 12 月



直方地区

● 構外の清掃活動

2024 年：6 回（1 回 / 2 ヶ月）



● 直方市主催 チューリップ植栽活動への参加

2024 年 12 月





従業員の環境意識向上活動

環境コミュニケーション

従業員一人ひとりが環境パフォーマンス向上のため、自主的に行動できるよう、啓発活動に取り組んでいます。

豊前地区、直方地区（SDGs への取り組み）

● サステナブルフードの提供

代替肉を使用することで水や飼料の消費や牛や豚からなどの CO2 削減に繋がる



● 構内での植栽 / 農作活動（食堂・従業員に提供）



● 近隣小学校にて半導体出前授業の開催

2024 年 10 月



● 産業廃棄物処分業者へ現地確認の実施

2024 年 11 月



B-Smile・N-grow の環境活動

豊前地区B-Smileとは：未来を担う子どもたちのために環境の大切さを伝え、豊前（**B**uzen）を笑顔（**S**mile）にする推進グループ

直方地区N-growとは：環境活動を通じて個人が成長することで、会社の成長（**g**row）へつなげ直方（**N**ogata）を元気にする推進グループ

● 豊前地区 _B-Smile 活動



2024 年 12 月

My エコバック作成イベント

● 直方地区 _N-grow 活動



2024 年 8 月

食堂の廃食油を再利用し、環境にやさしい石鹸作り